

観察の眼「伊吹山自然観察会」

～夏の伊吹山上のお花畑と鹿の食害の対策の実態・変遷～

実施日：2019年7月26日

記録：1班 高原 富佐子

観察コース：中央遊歩道（上り）～ 山頂 ～ 西遊歩道（下り）



シモツケ (バラ科)

・落葉低木、葉は卵形



シモツケノウ (バラ科)

・多年草、葉は掌状の奇数羽状複葉



クサフジ (マメ科)



イフキフクロ (フウロソウ科)

・花弁の先が3裂する



ハクサンフクロ (フウロソウ科)

・ガク、花柄、葉などに開出毛が少ない



ヒメフクロ

・葉は細裂する



・花も小さい



イフキトラノオ (タデ科)

・円柱状の花穂を付ける
・花は香りがする



カワラナデシコ (ナデシコ科)

・花弁の先は深く細裂する



アカソ (イラクサ科)

・雌雄同株
・上方の赤いのは雌花序



キバナカワラマツバ
(アカネ科)



カワラマツバ (アカネ科)
・花は白色



キリンソウ (ベンケイソウ科)
・茎、葉は多肉質



キバナ/レンリソウ (マメ科)
・茎に稜角、小葉は2個



キオン (キク科)
・頭花の舌状花は5個



ヤマガラシ (アブラナ科)
・根生葉は羽状
・頂小葉は丸くて大きい



メタカラコウ
(キク科)
・舌状花は1～3個
・葉は三角状心形



キンバイソウ (キンポウゲ科)
・花弁に見えるのはガク片
・内側の線形に見えるのが花弁



ミヤマトウキ (セリ科)



シシウド (セリ科)



クサタチバナ (キョウチクトウ科)

・果実が付いていた



キヌタソウ

(アカネ科)



ヤマホタルフクロ (キキョウ科)

・ガク片の間がふくらむ



コバノミミナグサ (ナデシコ科)



タカトウダイ (トウダイグサ科)



クガイソウ (オオバコ科)

・葉は輪生する



クルマバナ (シソ科)

- ・茎は四角形
- ・花は数段輪生する
- ・ガクは紫色を帯びる



ウツボグサ (シソ科)

・花穂は夏に枯れる (夏枯草)



ミヤマアザミ (キク科)

- ・ノアザミの変種
- ・草丈が低く、刺が多い



オオバギボウシ
(キジカクシ科)



イソキジャコウソウ (シソ科)
・小低木、芳香がある



サラシナショウマ
(キンポウゲ科)



コイフキアザミ (キク科)
・まだ蕾がかたい



フジテンニンソウ (シソ科)
・小さい蕾が付いている



クモケイソウ (ラン科)
・林内に生える多年草



ススムシソウ (ラン科)
・花を鈴虫に見立てた



ハナヒリノキ (ツツジ科)

・落葉低木



オオイタヤメイゲツ (ムクロジ科)

・裂片が多く、葉柄が長い



オオカメノキ

(レンプクソウ科)



マユミ (ニシキギ科)

・実は4裂する



ヤマアジサイ

(アジサイ科)



マメグミ (グミ科)

・葉縁が波打つ。夏に熟す。



右上は花



鹿の食害で白骨化した枯れ木



山頂のお花畑の至る所に防護柵が設けられている



防護柵の内 (左側)

外 (右側)



・防護柵の内側では
イブキトラノオやシモツケソウが咲いていた



・鹿の食害と対策の変遷が
写真展示されている